

アルミ

昨年11月のOPEC総会をきっかけにした原油安、それに伴うコモディティ全体の価格下落の中、LMEアルミ価格は銅ほどは下がらなかった。自動車軽量化など用途拡大の流れから来るタイト感があつたためだ。だが3月に相場は軟化、トン1700が台で推移した。銅と逆の動きになったのは、中国のアルミ半製品輸出拡大が弱材料視されていると考えられる。中国は電気代が安い内陸中心に製錬所の増強が続くが、国内の需要鈍化で供給増を吸収しきれず、周辺のアジア地域に流出している。中国と非中国の市場間を隔てきた壁に一種の「ぼこぼこ」が生じたと言える。半製品輸出をもたらすエネルギーは中国と非中国の価格差だ。これがある程度圧縮しなければLMEもプレミアムも上昇は見通し難い。上期のLME価格は1650-1950を予想。プレミアムも徐々に下落するだろう。4-6月は380で決着したが、7-9月は300が台前半まで下がる可能性もある。

1650—1950ドル、割増金も下落へ



神戸製鋼所アルミ・銅事業部門原料部長
久保和広氏

アルミ

1600—2200ドル、需要増で上値試す

LMEのアルミ3カ月物は、前年上期と同様にトン1600-2200での低位安定を予想する。入庫より出庫が常に多くなるLME倉庫ルール改正などで、需給が緩和気味なため、当面は下値を探る展開になりそう。その後は、需要の伸びとともに上値を試すとみている。

2014年上期を振り返ると、中国景気への懸念や欧州経済の低迷は気がかりだったものの、世界経済は緩やかに持ち直した。特に、自動車生産が伸びたことが、非鉄金属相場を支えた。15年上期も、同じような展開になると考えている。

原油価格が急落したことを受け、米国では自動車販売台数が伸びてきている。これは、アルミ需要を押し上げるだろう。アルミは需給がバランスに近い状態であり、需要が出てくれば相場は上値を試しやすい。

原油価格が戻りそうなくとも強材料。シェール・オイルの生産は、4-6月にも減少に転じるとみている。



野村証券経済調査部
シニアエコノミスト
大越龍文氏

アルミ

LMEのアルミ3カ月物は、ドル高が一服するのであれば、トン1750-1800が底値になるだろう。需給だけを見ても、1700割れは考えにくい。ただ、供給過剰感が残っており、積極的には上値を追いづらい。

世界全体のアルミ生産量のうち半分以上を占める、中国の動向に注目している。欧米などの生産者の減産によって、中国を除く地域では需給がタイトになった。ただ、中国が供給過剰であるため、相場は依然として頭重い展開が続いている。

減少傾向にあるLME在庫も気がかり。入庫より出庫が常に多くなる倉庫ルール改正により、市中に地金が出てきやすくなった。在庫の減少ペースは足元で鈍化しているものの、再び加速するようなら、中国以外の地域でもひっ迫感が薄れる可能性も出てくる。

こうした需給悪化懸念が表面化せず、ドル高が落ち着けば、アルミは上期の早い段階での上昇も期待できる。

ドル高一服、底値1750—1800ドル



エモリキャピタル
マネジメント代表取締役
江守哲氏

アルミ

材料不足、1750—1850ドル狭レンジ

LMEのアルミ3カ月物は、トン1750-1850の狭いレンジを予想する。ドル高、原油安、高止まりするプレミアム(割増金)に変化が生じない限り、安値圏にあるアルミだが上昇は見込みづらい。

世界景気見通しに不透明感が強い中では、アルミは上にも下にも振れにくいだろう。先進国経済を見れば米国は底堅いものの、欧州はドイツのみ、日本は良くはない。

中東の過激派組織「イスラム国」の存在や、ロシア問題など、国際情勢は不安定さを増している。有事のドル買いは続くだろう。一方、地政学的リスクが高まっているにもかかわらず、商品代表する原油は弱地合い。米在庫が多いことから、原油が反発しても戻りは限定的とみられ、これはアルミの頭を重くする。

高値圏にある割増金は、引き続きアルミの上値を押さえそう。6四半期ぶりに下落したとはいえ、割増金はまだまだ高い。



岡村金属社長
岡村晋吾氏

アルミ

極端な変化なく1750—2100ドル

LMEアルミ相場はトン1750-2100と予測する。

焦点は、米FRBの利上げ開始時期や中国景気の動向と対策、原油価格の動向の3点。米FRBの利上げ開始時期は、有力だった6月説からECBの金融緩和やスイスフランの介入の終了、ギリシャ債務問題の再燃など取り巻く環境が変化し9月以降になると考える。

中国景気動向は、2015年の成長率目標がプラス7%と縮小した事や、HSBCの3月のPMIが49.2と2月から予想以上に低下。新規受注の低迷を受け、11月ぶりの低水準となっており、全体としての小幅悪化は避けられない。

原油価格は、シェールガスとのシェア争いから11月45割れまで下落したが、サウジOPEC側の口先介入や原油在庫の増加を考えれば、45-50が近辺で推移する。これらを踏まえ、LMEアルミ相場の極端な変化は考え難く、前期と同じレンジ内の動きとなる。



橋本アルミ取締役
橋本健一郎氏